



パネリスト西川誠也氏



パネリスト岩波裕之氏



パネリスト加藤洋一氏

### ●携帯通販への取り組み

松岡 ロックウェーブ岩波氏から携帯市場について伺う。

岩波 携帯電話の通販の市場は5年間で3倍ぐらい成長し1.5兆円の規模になっている。EC（Electric Commerce・電子商取引）全体が6.7兆円である。すでにコンビニエンスストアの市場も抜いている。ECの5分の1、つまり5回に1回は携帯で取引されている。これをどう思うかである。野村総研のデータでは3年後ぐらいには、携帯での取引が4回に1回、2.2兆円になるといわれている。

この携帯市場にできたのがスマートフォン

である。2015年には携帯の半分がスマートフォンになるともいわれている。スマートフォンが出てくるとパーソナルコンピュータ（PC）を使う人がどんどん減って、ほとんどが携帯のスマートフォンになってくる。そんな状態になる。

当社にもいろいろな形で紙からのクロスメディアをやりたいという話をいただく。印刷会社の中で携帯に取り組みたいという話もあるが、上手くいくケースは本当に少ない。何故か。ウェブサイトであってもその効果が求められる。マーケティングに携わると市場についていく必要がある。世の中、お客のニーズはどんどん変化している。マーケティングの有り方もどんどん変化している。例えば、携帯EC市場は1.5兆円にもなっているにもかかわらず、なかなか理解し辛い。本日おこしの皆さんの会社はWebの関係を行なっている会社もたくさんあるが、実際には皆さんほとんど選んでいる。現段階では残念ながら取り組んでも無理である。では、携帯に取り組んで上手くいく方法は何か。それは今までの考えを否定する。今までやってきたことを全否定するぐらいでなければ

ば上手くいかない。

### ●携帯で物を買わない 35歳以上の男性ビジネスマン

インターネットでどれぐらいの人が物を買っているのか、皆さんは50~70%ぐらいと思われると思う。インターネットで本やその他の商品を頼んだことのある人は90%以上いる。これが現実である。だから、自分自身が携帯を全くわからないというスタンスでマーケットを見る。そうすると素直に携帯がわかってくる。

市場が1.5兆円ぐらいになっても、ユーザーに携帯通販に取り組んだらどうかという提案をすると、年配の方は携帯で物を買うなんて考えられないという。携帯で一番物を買わない方は35歳以上の男性のビジネスマンである。それ以外の人は利用している。昔前は、若い女の子が非常に多かったが、今は20代、30代の男性や女性、主婦の方も多くなっている。そういう市場をまず理解することから始めなければならない。もし、取り組むと考えているなら、何度もいうようであるが、今までのことを全て否定し、全く新しい気持ちで携帯というものを見たほうがよい。

インターネットで物を売っているクライアン

トから、通販をしたいから提案をしてくれ、との依頼がある。しかし、携帯に取り組みたいときは、携帯の話ができることが必要である。私たちに提供していただければお手伝いをしますが、私たちはシステム屋で、ASPというサービスをお客さんに提供している。それをベンダーを介して代理店、印刷会社に提供している。もし携帯、スマートフォンに取り組むなら、自社が携帯に取り組む上で、過去を否定しなくてはならない。その上で新しいことに挑戦する。片手まで行なうのではなく、ノウハウを持つようにリソースを確保する。携帯の中味をわかっている人がいなければ上手くいかない。

### ●ネットの中心はスマートフォン

最後に、スマートフォンについて簡単に話したい。2015年には、ネット利用の中心はスマートフォンになっていく。携帯はどんどんスマートフォンに変わる。重要なのはネットを考えるとスマートフォンに重きを置く必要があることである。一番問題視されているのが、ユーザーインターフェイスをどうしていくか。今はパソコンというサイズに合わせてウェブサイトを作っている。それが携帯にも送られ、スマートフォン用のサイトとなるが、これは現実的では

## ■2015年、ネット利用の中心はスマートフォンに！

ない。大手の資本を持っているところはスマートフォンのサイトを作ったほうがよい。ただ、中小規模の会社はそこまでのリソースがあるか問題がある。そうするとPCと携帯のどちらかのサイトを、スマートフォンに対応していく必要がでてくる。現状ではほとんどの会社がスマートフォン対応を行っていない。携帯でPC用のサイトにアクセスすると物凄く鬱々としている。たまに携帯サイトにアクセスできたら、すごくやりやすい。

もしウェブがあるなら、まずはユーザーの印刷ベースをスマートフォンに対応していく。最適化していくことがベースになる。当社では、携帯のサイトをiPhone用に最適化している。携帯のサイトはスマートフォンに近いので、ある程度大きさがきいているので、下へスクロールだけですむ。こうした型でサイトを作ればiPhoneにも自動的に対応する。確実にスマートフォンが伸びていき、ウェブサイト、マーケティングがどうなるか、大きく携わっていく可能性がある。まずはユーザーインターフェイスの改造を抑えたい。